

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第36回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2026年 **3**

地域連携学生プロジェクト ビジネススクリエイトラボ × 株式会社 丸宇 「ビジュアル × 質」で世界へ広げる日本茶の挑戦

地域企業の課題解決に取り組む地域連携学生プロジェクト「ビジネススクリエイトラボ」が、日本茶の商品開発・販売・企画を行う「株式会社丸宇」の呉（ゴ）専務と鎌田常務からお話を伺いました。

【新しい日本茶体験を】

インクボトル入りの抹茶ドリンクでSNSを中心に爆発的な話題を呼んだ「MATCHA RE:PUBLIC」の仕掛け人として知られる株式会社丸宇（丸宇製茶）。「抹茶だけでなく日本茶全ての魅力を知ってほしい」との思いから、京都・宇治唯一の焙じ茶専門店「HOHO HOJICHA」を展開。さらに、宇治市源氏物語ミュージアム内にある「雲上茶寮」では、物語の世界観を表現した美しいパフェや本格的な宇治茶を提供しています。こうした「ビジュアル」と「質」を両立させた取り組みは国内に留まらず、海外への茶葉の輸出や、ホノルルへ出店を果たすなど、宇治茶の新しい風景を世界へと広げ続けています。

【入口はおしゃれに、中身は本格派】

呉専務は「見せかけではなく、本物の美味しさを届けたい」と話します。革新的な店舗設計やパッケージデザインを展開する一方で、伝統を踏襲することの大切さも感じており、鎌田常務は、日本茶の歴史や鑑定、淹れ方や技術指導など専門知識を持つスペシャリストに与えられる「日本茶インストラクター」という資格を取得されています。日本茶の歴史やお茶の品種や産地を学び、抹茶の点て方やお茶の淹れ方などの技術を身に付けているからこそ、新しい発信ができています。「MATCHA RE:PUBLIC」を訪れるお客様は、“おしゃれ”や“映え”という入り口から入ってくる方が多いですが、そこで提供される抹茶ラテは、スタッフがカウンターで茶筌を使って丁寧に点てた宇治抹茶が使われています。商品の企画力で日本茶に親しむお客様の間口を広げることと、美味しい日本茶を提供することで伝統を守りながら日本茶の魅力発信に努めています。



↑「雲上茶寮」での取材の様子

【コミュニケーション力で「できない」を「できる」に】

2011年の創業時は、アパレル雑貨を扱っていましたが、呉専務の「お茶をやりましょう」の一言から日本茶へ舵を切ります。本社を宇治橋が一望できるビルの3階に構え、その後次々とブランドを設立し、3つの店舗を宇治市内に開きました。そんな勢いのある丸宇は「できないことはない」というスローガンを掲げています。難しい仕事やなかなか進まない作業があると「なぜできていないか?」「何が足りないのか?」「どうしたらできるようになるのか?」を社員同士で話し合い、「できない」ではなく、できるようにするために何が必要かを見つけていくのです。社員同士がコミュニケーションを取りやすい環境を作っているのも会社の魅力で、社員が思いついたアイデアなどを気軽に発言し、挑戦できるのも新しい会社ならではの「強み」です。



↑ 玉露、煎茶、ほうじ茶

【今回の取材先】

株式会社 丸宇

(宇治市宇治妙楽1-1)



↑ 呉専務（左）と鎌田常務

2011年11月設立。代表取締役社長は于（ウ）氏。宇治の一流な生産者・審査師と提携し、厳格な審査基準で良質な宇治茶・宇治抹茶を厳選し、製造・販売を行う。宇治橋通りに抹茶専門店「MATCHA RE:PUBLIC」や焙じ茶専門店「HOHO HOJICHA」を構える他、宇治市源氏物語ミュージアム内に日本茶茶寮「雲上茶寮」を開業。現在従業員数は43名。

【今回の取材担当】

ビジネススクリエイトラボ

地域企業と連携し、大学生目線で企業の課題の解決を図り、地域活性化を目指す実践型のプロジェクト団体です。



取材・記事の作成を担当した学生。左から、高橋 朋実さん（臨床心理学部3年次生）、鎌田常務、呉専務、大友 裕斗さん、井ノ口 遼さん（ともに、総合社会学部1年次生）